

愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品『HAND SOAP』が、
「ヨコハマ国際映像祭 2009」CREAM コンペティション優秀賞を受賞



愛知芸術文化センター・文化情報センターでは、1992年の開館以来、一年に一作品のペースで「愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品」を制作しています。この映像作品の創作プログラムは、現代の芸術、思想、哲学において重要なキーワードである“身体”を統一テーマに設定し、実験映画、ビデオ・アート、ドキュメンタリー、アニメーション、ドラマなど、既存の映像ジャンル区分に捕らわれず、独自の視点から作家を選定し、商業ベースでは成立し難い独創的な作品を生み出してきました。過去の作品では、『トワイライツ』（監督：天野天街、1994年）、『ボディドロップアスファルト』（監督：和田淳子、2000年）、『影の子供』（監督：辻直之、2006年）が主要な映画祭で受賞するなど、高い評価を受けています。

大山慶監督『HAND SOAP』（2008年）は、本シリーズ通算17本目の作品として制作され、2008年11月に開催された「第13回アートフィルム・フェスティバル」（主催：愛知芸術文化センター）で初公開。人間の皮膚のテクスチャーを捉えるなど、クローズアップ撮影した写真をコンピューター上でカラージュし、そこへ陰影をつけコマコマを描いていくという、大変手間のかかる手法により、独特の質感をもった映像表現を実現。思春期の少年とその家族の関係を、息のつまるような緊張感で静かに描いています。その後、今年2月～3月に東京都写真美術館の「第1回恵比寿映像祭」に出品されるなど、映像の現在を鮮烈に反映した重要な作品として評価され、上映機会を得てきました。

「ヨコハマ国際映像祭 2009」（会期：2009年10月31日（土）～11月29日（日）、会場：新港ピア、BankART Studio NYK、東京藝術大学大学院映像研究科馬車道校舎、他）は、今年、開港150周年を迎える横浜が、「映像文化都市・横浜」の新たな取り組みとして立ち上げた、現代美術、メディアアート、CG、アニメーション、映画、写真など、様々な映像を対象とした、映画祭でも現代美術展でもない、新しい国際的なフェスティバルとして、関係者の注目を集めていました。ドキュメンタリー、実験映画、インスタレーション、パフォーマンス、オンライン作品など、世界中からエントリーされた総数992件より、コンペティションの第2位に相当する「優秀賞」を受賞したことは、『HAND SOAP』の現代を刻印した作品としての評価を示すものといえるでしょう。

●大山慶監督プロフィール

1978年東京生まれ。2001年、イメージフォーラム付属映像研究所卒業(第24期)。2005年、東京造形大学卒業。卒業制作作品『診察室』が「イメージフォーラム・フェスティバル2005」入選、「BACA-JA」最優秀作品賞、「学生CGコンテスト」最優秀賞、「アルスエレクトロニカ」佳作などを受賞。「カンヌ国際映画祭」監督週間、「ロッテルダム国際映画祭」、「香港国際映画祭」など多くの海外映画祭に正式招待され、高い評価を得る。2006年、アニメーションによるオムニバス映画『Tokyo Loop』に参加。2007年、東京造形大学大学院修士課程修了。現在、次作が最も期待される若手作家の一人として、注目を集めている。

●これまでの愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品一覧

- No.1 岩井俊雄・作 シンボル映像(1992年、環境映像作品)
- No.2 勅使川原三郎監督『T-CITY』(1993年、35mm、28分)
- No.3 天野天街監督『トワイライツ』(1994年、16mm、33分)
*「第41回オーバーハウゼン国際短編映画祭」(1995年、ドイツ)グランプリ、
「第44回メルボルン国際映画祭」(1995年、オーストラリア)短編部門グランプリ
- No.4 ダニエル・シュミット監督『KAZUO OHNO』(1995年、35mm、15分)
- No.5 キドラット・タヒミック監督『フィリピンふんどし 日本の夏』
(1996年、16mm、39分)
- No.6 大木裕之監督『3+1』(1997年、16mm、82分)
- No.7 前田真二郎監督『王様の子供』(1998年、16mm、40分)
- No.8 園子温監督『うつしみ』(1999年、16mm、116分)
- No.9 和田淳子監督『ボディドロップアスファルト』(2000年、ビデオ、96分)
*「第6回スプリト国際新作映画祭2001」(クロアチア)ビデオ部門特別賞
- No.10 石田尚志監督『フーガの技法』(2001年、16mm、20分)
- No.11 白川幸司監督『眠る右手を』(2002年、ビデオ、208分)
- No.12 帯谷有理監督『サイケデリック・オルガン・パンダ』(2003年、ビデオ、110分)
- No.13 槌橋雅博監督『動・響・光(Ugoki・Hibiki・Hikari)』(2004年、ビデオ、180分)
- No.14 七里圭監督『ホッテントットエプロンスケッチ』(2005年、ビデオ、70分)
- No.15 辻直之監督『影の子供』(2006年、16mm、18分)
*「第45回アナーバー映画祭」(2007年、アメリカ)奨励賞
- No.16 三宅流監督『究竟の地ー岩崎鬼剣舞の一年』(2007年、ビデオ、161分)
- No.17 大山慶監督『HAND SOAP』(2008年、35mm、15分)
*「ヨコハマ国際映像祭2009」CREAMコンペティション優秀賞

*最新第18弾 寺嶋真里『アリスが落ちた穴の中 Dark Märchen Show!!』(2009年)が、本年11月~12月開催の「第14回アートフィルム・フェスティバル」で初公開を予定しています。

*愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品は、愛知芸術文化センター1階 アートライブラリーのビデオブースで鑑賞できます。

● 「ヨコハマ国際映像祭 2009」 CREAM コンペティションについて

REAMとは、Creativity of Arts and Mediaの略で、デジタル化によって、多くの人々が自由に扱える道具へと変わりつつある映像が、重要なコミュニケーション・メディアとなる時代に向けて、多様な個人のあり方が反映される表現と記録について考え、体験することを意図した、この映像祭のテーマです。

《受賞作品一覧》

CREAM 賞 松島俊介 『VOICE-PORTRAIT ~self-introduction~』

優秀賞 Marius Lenewit、Rocio Rodoriguez 『...niland1』

大山慶 『HAND SOAP』

津田道子、キャロライン・バーナード

『HACHIOJI: HOLE IN GAP - the crossing of zebra crossing』

審査員特別賞 UBERMORGEN.COM 『The Sound of eBay』

Johan Gremontprez 『DOUBLE TAKE』

審査員

一次審査員：

宇川直宏（映像作家、グラフィックデザイナー、現代美術家、VJ、京都造形芸術大学教授）

千房けん輔（アーティスト、「エキソニモ」メンバー）

土屋 豊（映画監督、ビデオアクト主宰）

最終審査員：

浅井 隆（アップリンク社長、プロデューサー、webDICE 編集長）

欧寧 [オウ・ニン]（映像作家、アートディレクター、評論家）

四方幸子（NTT インターコミュニケーション・センター[ICC] 特別学芸員）

STUBBS, Mike [スタッブス・マイク]（アーティスト、FACT [Foundation for Art and Creative Technology] ディレクター）

諏訪敦彦 審査委員長（映画監督、東京造形大学学長）

山村浩二（アニメーション作家、国際アニメーションフィルム協会日本支部理事、東京芸術大学教授）

「ヨコハマ国際映像祭 2009」

主催 横浜国際映像祭 2009 実行委員会（横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団）

ディレクター 住友文彦